

シンポジウム

家族支援の連携システムづくり

— 家族セルフケア機能を高めるため —

岩手県軽米町健康ふれあいセンター

島 山 貞 子

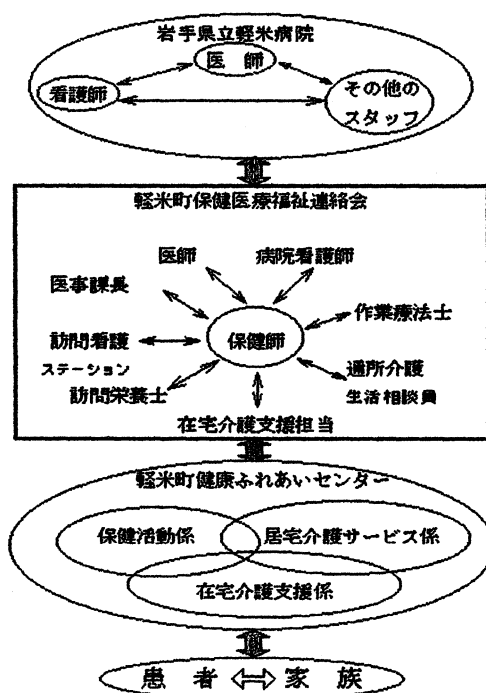
1. はじめに

保健活動を通じ、家族関係の複雑さや家族が持つ力の大きさを学ぶ場面が多い。心身の健康問題を抱えた患者・高齢者等の家族は、身体的・精神的ストレスの多い生活を余儀なくされる。看護者として、家族のセルフケア機能を高める支援がいかに重要か実感している。また、これまでの家族看護はアセスメントから評価までの過程ををきちんと踏まえた支援とはなっていなかった。家族看護の援助方法の理論に基づき事例検討を積み重ねていくことが課題である。今後も、看護者の適切な関わりや家族会支援を深めて、患者や家族の生きる力を高め自立へとつなげていきたい。

2. 患者・家族を支える保健医療福祉の連携

軽米町健康ふれあいセンターを拠点に、隣接する岩手県立軽米病院と予防からリハビリまでの包括的な健康管理を目指し保健医療福祉連携のシステムづくりに力を入れてきた。昭和58年度から「軽米町保健医療福祉連絡会」を毎月1回開催し、家族支援を含め事例検討を重ねてきた。複雑な家族関係、保健・医療・福祉サービスの調整が必要な事例など、各保健医療福祉分野の役割を調整し患者や家族の自立に向けた検討を行なっている。他職種が支援方針を共有し連絡を密にしながらサービス提供することによって、患者や家族が安心して在宅療養が可能になったケースが増えている。連絡会の運営には保健師が当たっているが、地域全体のニーズを把握しながら、保健師の調整機能を十分に活かすように努め役割を果たしている。

軽米町の保健医療福祉連携システム



3. 家族の生き方を支える活動

平成8年度に結成された軽米町精神障害者家族会「ふれあい会」は、自主的に定例会などを開催し、家族の悩みや体験を語る場になっている。会員はこの活動を通して①家族間の会話が生まれ、家庭が明るくなったことが何より嬉しい。②家族の思いを話せる場があることで気持ちが軽くなった。③家族会活動で学習（講義や体験談等）を重ねたことにより自分自身（家族）が変わった。息子も入院を繰り返さなくなった。④家族が元気になれば障害者も元気にならない。など家族の変化が障害者本人の行動に影響を与えることに気づいてきている。保健師は家族と目標を共有しながら活動を支えてきた。このように、活動する中で家族の気づき・考え方・行動に変化が見えてきており、保健師の役割は本人・家族の主体性を尊重し、必要な情報を提供しながら側面から活動を支えていくことであると考える。